

魚介類、底生動物調査 (1/2: 対策施工前と施工後の魚類相および底生動物相)

事前の想定 ● (一)

モニタリング内容

- ・ 魚介類調査
- ・ 底生動物調査

結果概要

- ・ 新たに形成されたワンドに新たな水生生物相が出現した。
- ・ メダカ、アオヤンマ等の特定種の生息を確認した。

知見 ・ 新たに形成されたワンドに新たな水生生物相が出現する。
 ・ 希少種の生息環境を創出できる。

評価 ・ 希少種などが確認されており、有効である。

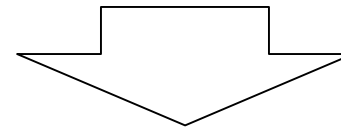
対策施工前

優占種 (優占順、上位7種まで)

- 魚類
 ブルーギル、ヌマチチブ、モツゴ、ウキゴリ、タナゴ亜科、
 タイリクバラタナゴ、ワカサギ

特定種

- 魚類 (5種)
 ヤリタナゴ、タナゴ、アカヒレタビラ、メダカ、ジュズカケハゼ
 底生動物 (2種)
 マルタニシ、ヒタチチリメンカワニナ



対策施工後

ワンド

沖側内水面

優占種

- 魚類
 メダカ、タイリクバラタナゴ、
 ドジョウ、ヌマチチブ

特定種

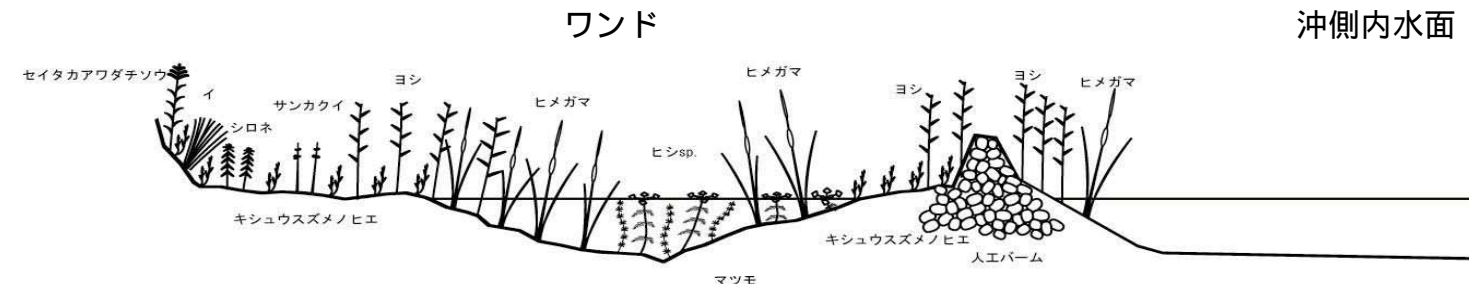
- 魚類 (1種)
 メダカ (1種)
 底生動物 (4種)
 コシダカヒメモノアラガイ、
 アオヤンマ、エサキアメンボ、
 コオイムシ

優占種 (優占順、上位7種まで)

- 魚類
 ヌマチチブ、タイリクバラタナゴ、
 ブルーギル、モツゴ、ウキゴリ、
 ワカサギ、クルマサヨリ

特定種

- 魚類 (4種)
 タナゴ、アカヒレタビラ、
 メダカ、ジュズカケハゼ
 底生動物 (2種)
 マメタニシ、コオイムシ



消波工

事前の想定 ● (一)

モニタリング内容

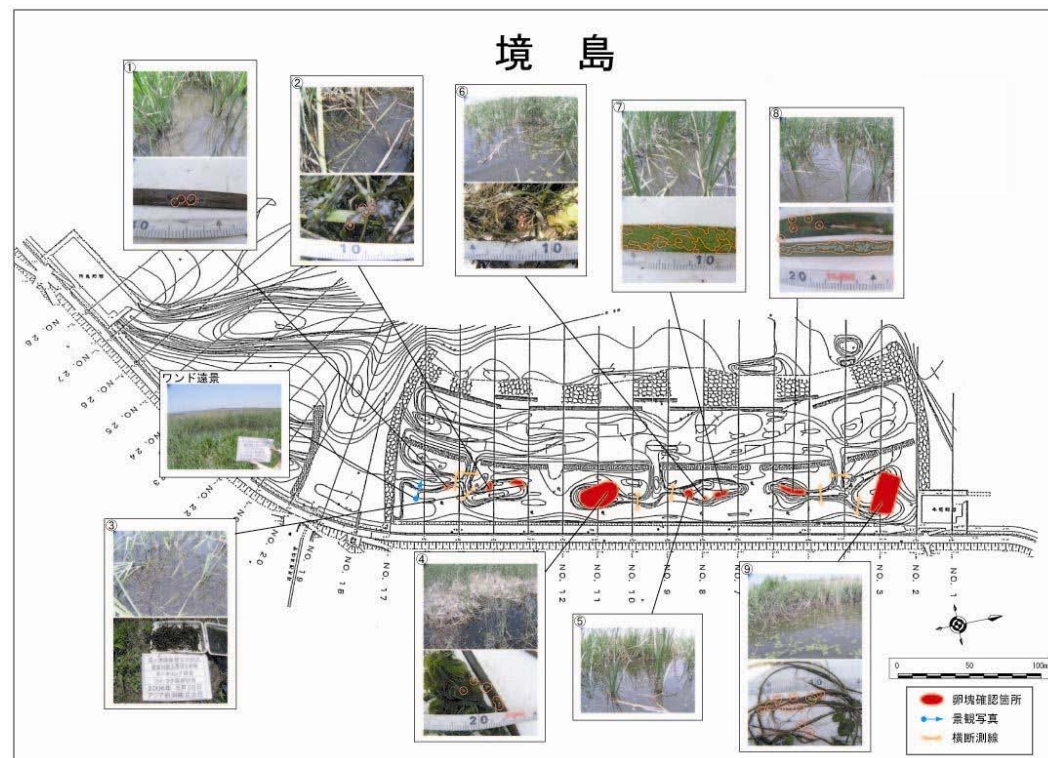
- ・ コイ・フナ産卵調査
- ・ (魚介類調査)

結果概要

・ 稚稚魚の生息が確認されている。

知見
・ 魚類の産卵場、稚稚魚の生息環境を形成できる。

評価
・ 種が増えており、有効である。



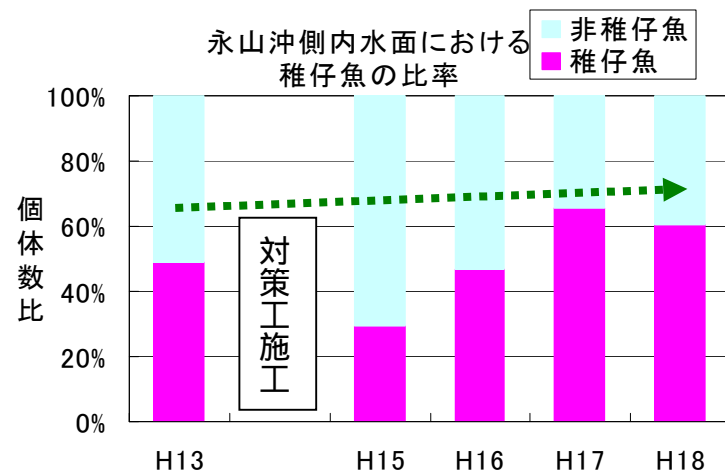
今年度の5月に実施した産卵調査では、「境島養浜工区」のワンドにおいて、多くのコイ科魚類の卵を確認した。多くはワンド内の抽水植物の根元や沈水植物に産み付けられていた。



(平成十七年度霞ヶ浦アサザ保護育成業務報告書、2005、アサザ基金)

「境島養浜工区」および大船津の各ワンドは、コイ科魚類の産卵場として利用されている他、稚稚魚の生育場としても利用されている。

「大船津上流養浜工区」春先にはアサザ群落内において、多くのコイの産卵が確認された。



「永山」(人工リーフ消波工・養浜・人工バーム・ワンド・クリーク)の沖側内水面では、稚稚魚の割合が増加した。

稚稚魚とは体長 25mm 以下とした。

個体数の多いフナ類、タナゴ類、モツゴ、ブルーギル、オオクチバス、ヨシノボリ類、ヌマチチブの捕獲合計数による稚稚魚と非稚稚魚の割合。